

東邦大学医療センター大橋病院小児科専攻研修プログラム

大橋・選択専攻科目

放射線科（1～7ヶ月）

1 目的と特徴GIO

現代医療において画像診断の占める割合は少なく無い。日常臨床における画像診断の適応と基本的読影法について学ぶ事を目的とする。研修医の将来の専門性に関わらず、医師として画像診断に適切に対応しうる基本的な能力（考え方や知識）を理解する事をGIOとする。

2 プログラム管理運営体制

プログラム委員会は東邦大学医療センター大橋病院放射線科スタッフより構成される。本委員会は研修プログラムに関する事項、研修医評価などにつき協議する。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は1～7ヶ月である。

東邦大学医療センター大橋病院放射線科に配置される。指導医の下で検査や放射線治療に関与する。

3-2 到達目標

3-2-1 行動目標SB0

- 1) 各画像診断法の基本原理と適応を理解し適切な適応を選択することができる。
- 2) 主訴、状態、目的に応じた適切な画像診断法を選択することができる。
- 3) 解剖学を理解し基本的な読影を行うことができる。

3-2-2 経験目標SBO+LS

経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 単純撮影の撮影法を理解し、読影とレポート作成ができる。
- 2) CT 検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 3) MRI 検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 4) 核医学検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 5) 超音波検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 6) 造影剤や放射性医薬品など薬品の種類、適応、使用法を理解し適切に使用できる。
- 7) 造影剤の副作用に対処できる。
- 8) 放射線治療の適応を理解できる。

3-2-3 評価基準

画像診断に適切に対応できる基本的な能力が修得されたかを基準として評価する。検査別に指導医が評価表をつける。

3-3 勤務時間

研修期間中の勤務時間、休暇、当直に関しては東邦大学医療センター大橋病院の規定に従う。勤務時間は原則的に午前9時から午後5時までである。しかし多くの検査は勤務時間外にも行われ、また抄読会、症例検討会、勉強会なども勤務時間外に行われる。

3-4 教育行事

- 1) カンファレンス：可能な限り全ての臨床各科・各グループのカンファレンスに参加する。代表的なものは脳外科カンファレンス（週1回）、肝胆道カンファレンス（週1回）、泌尿器科カンファレンス（月2回）、呼吸器外科カンファレンス（週1回）、CPC（月1回）などがある。
- 2) 抄読会：毎週木曜日午前8時から当番制で画像診断に関する英文論文を抄読し討論を行う。

3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任者は東邦大学医療センター大橋病院放射線科教授である。研修医は各検査室に交代で配属され、検査の実際は当該検査を担当する指導医の指導を受ける。読影は臓器別に指導医が指導する。

4 研修医個別評価

各指導医の評価表を参考に画像診断に適切に対応できる基本的な能力が修得されたかを指導責任者が総合評価する。教育行事への出席状況や研修医症例発表会での発表内容なども評価の対象になる。